

# グリーン四国

四国森林管理局

高知市丸ノ内1丁目3-30

TEL 088-821-2052

FAX 088-821-4834

ホームページアドレス <http://www.rinya.maff.go.jp/shikoku/>

電子メール [shikoku\\_soumu@rinya.maff.go.jp](mailto:shikoku_soumu@rinya.maff.go.jp)



四国山の日

No.1101 2011年12月号

## 「小田深山ふれあいの森」の協定締結

### ～人と自然の調和をめざし～

【関連記事2頁】



山崎愛媛森林管理署長（左）稲本内子町長（右）による協定（11月2日）



植樹活動参加者（11月13日）



2011・国際森林年



地元小学生や森林ボランティア等による植樹活動

民参加の森づくりと小田深山の自然林再生や住民のふれあいを目指したレクリエーション活動の場を求めていたところです。今回の「小田深山ふれあいの森」の協定により森林

管理署と町・住民の方々が協力して森林を造成し、「森と水の美しさ」「自然を大切にすする心」を発信していくこととしました。また、一月一三日には、「小田深山ふれあいの森」で地元の小学生や高校生、森林ボランティア等約八〇名が参加して、看板の除幕式などのセレモニーを行い、その後、森林教室や植樹活動を実施しました。

当署職員による森林教室では、植樹するミズナラ・カエデ類（一五種類）の広葉樹の特徴や森林の働きなどについて説明しました。内子町からは、植樹活動の注意点を説明していただき、苗木約六〇〇本を植樹しました。参加した地元内子町の小学生は「植えていくのは楽

しいが疲れるし大変だと分かった」「一〇年後、二〇年後を楽しみに、また見に来たい」と笑顔を見せていました。今後とも当署として森づくり活動を支援し、普及活動に取り組んで参ります。

一月二日、愛媛森林管理署と内子町で愛媛県内子町小田深山国有林五五林班い小班（二・一〇ha）において「ふれあいの森」における森林整備等の活

動に関する協定」を締結しました。内子町は、小田深山において「せんの森（人と自然との共生の森）」づくり活動を行っており、住

民参加の森づくりと小田深山の自然林再生や住民のふれあいを目指したレクリエーション活動の場を求めていたところです。今回の「小田深山ふれあいの森」の協定により森林

管理署と町・住民の方々が協力して森林を造成し、「森と水の美しさ」「自然を大切にすする心」を発信していくこととしました。また、一月一三日には、「小田深山ふれあいの森」で地元の小学生や高校生、森林ボランティア等約八〇名が参加して、看板の除幕式などのセレモニーを行い、その後、森林教室や植樹活動を実施

しました。当署職員による森林教室では、植樹するミズナラ・カエデ類（一五種類）の広葉樹の特徴や森林の働きなどについて説明しました。内子町からは、植樹活動の注意点を説明していただき、苗木約六〇〇本を植樹しました。参加した地元内子町の小学生は「植えていくのは楽



しいが疲れるし大変だと分かった」「一〇年後、二〇年後を楽しみに、また見に来たい」と笑顔を見せていました。

今後とも当署として森づくり活動を支援し、普及活動に取り組んで参ります。

今後とも当署として森づくり活動を支援し、普及活動に取り組んで参ります。







久礼中学校体育館

ら、木材の活用や木材の特性について理解を深めました。

今回で、今年度の国有林野等の現場学習を終え、高校生達は森林に対する関心を高め、国有林の業務や、森林の持つ働きの重要性について理解できたようでした。

## 各地のたより

### 順調な植生回復を確認

〈ふれあいセンター〉

頂周辺の植生回復に取り組んでいます。



蘇りつつある滑床山頂

好天に恵まれた一〇月一八日、滑床山頂（通称三本杭）において関係機関、ボランティア団体等の関係者三六名が参加して、第七回滑床山植生回復検討会を開催しました。宇和島市、松野町、四万十市にまたがり、かつてはミヤコザサやオンツツジが群生していた滑床山頂周辺は、平成一二年頃からニホンジカの食害により裸地化したことから、平成一八年六月に滑床山植生回復検討会を立ち上げ、ボランティア等の協力も頂きながら山

今回の検討会では、平成一九年三月にシカ防護ネットを設置して移植した「たるみ」及び「滑床山頂」のミヤコザサが順調に繁茂していることや、枯れ木など現地資材を活用した簡易な土留め措置

がリョウブやカエデなどの稚樹の発生を促し、土壌の流出を防止しつつある状況などを確認しました。

当センターからは、昨年の検討会で提言された滑床山頂西斜面のギャップに、シカ防護ネットを設置することを説明するとともに、「たるみ」と「山頂」のネット内は登山道をロープで標示して登山者に協力を呼びかけ、拡がりつつあるミヤコザサの地下茎を保護していくことを提案し了承されました。

また、滑床山頂周辺でニホンジカによる剥皮被害などを調査している（独）森林総合研究所四国支所から、ネット外では継続的に食害が発生していることや、ニホンジカの生息密度は依然として自然

植生に大きな影響を及ぼす高いレベルにあることなどが報告され、出席者からも広範囲な被害状況、連携した個体数調整の必要性などの意見が出されました。

当センターはモニタリングを継続し、関係者、ボランティア等と協働して、滑床山頂周辺の植生回復に取り組んでいくこととしています。



現地検討会

## 四万十川の

### 源水の地を目指して

〈ふれあいセンター〉

一〇月三十一日、四万十高等学校と、大正・十川・昭和・北ノ川の各中学校の生徒五四名を対象に、四万十森林管理署の応援を得て、「西の千本山」と「四万十川源水の地」を案内しました。

この森林教室は毎年恒例となつているもので、地元の高校生と中学生が四万十川源水の地である不入山いらふやまを訪れ、森林生態系の成り立ちおよび本来の森の構成を学習するとともに、流域の自然のあり方について考えるきっかけづくりを目的に学習しているものです。

西の千本山では、複層林施業についての説明や

直径巻尺やデジタル測高計を使つての測樹を体験しました。源流点から更に奥の

源水の地登山では、予想以上の足元の悪さに閉口して

いましたが、四万十川の最初の一滴を見て、疲れも吹き飛んだ様子でした。

生徒達は、自分たちの生活を支える水を育む森への関心・理解が一層深まったことと思ひます。



源水の地で記念撮影

## ブナの森に遊ぶ

〈ふれあいセンター〉

紅葉が色づき始めた十一月、高知県と愛媛県にまたがる鬼ヶ城山系の八面山やつづらやまをたぐさんの小学生が訪れました。

一日は、四万十市立下田小学校四年生一七名、一日は、同立市津野川小学校全校児童二一名、一日は、宿毛市立松田小学校五年生四九名、二日は、四万十市立川崎小学校五年生一七名、二日は、同市立具同小学校五年生七二名です。

各学校は、旧黒尊スーパールン道宇和島市側や黒尊溪谷側から一時間以上かけて「猪の丸」下の登山口に到着。曲がりくねった道に乗り物酔いする児童もいましたが、

登り始めると眼下に宇和海が広がり、時折吹く秋風に気分も良く、元気に登りました。

登りながら樹木の名前やその由来、特徴などを職員から教わっていました。

また、近年、八面山周辺ではニホンジカによる食害により林床のミヤコザサや灌木類の衰退が進んでおり、職員からニホンジカの食害跡やニホンジカが食べないために増えている植物などを教わりました。

約一時間で山頂に到着すると、四方の景色を堪能し、ブナ林へ向かいます。八面山山頂から滑床山（通称・三本杭）に続くつり尾根にはブナ林が広がっており、黄色く色づいたブナの落ち葉が積

もった林床でお弁当を広げました。

昼食の後は、直径一メートルほどのブナの大木にロープをかけた職員手作りのブランコで遊びます。高さ八メートルほどの枝にかけたブランコは、斜面の高さと相まって高度感満点です。最初は「怖い」と言っていた児童も「アルプスの少女ハイジみたいや」と何度も乗り、学校では味わえない森での遊びに歓声を上げていました。

帰途、空気の澄んだ日には途中にある大久保山から、東は西日本最高峰石鎚山、西は九州の阿蘇、久住の山並みを望むことができます。

運良くこの絶景を見ることができたり、予想以上の寒さに震えながらお弁当を広げたり、各学校



それぞれに晩秋の八面山を楽しんでいました。

後日、各学校から感想や礼状をいただき、「木の名前を覚えることができませんでした」「寒かったけど、とても楽しかった」など、森林への興味や関心、学習の一助になれたものと実感しています。



森の学習



## 恒例の森林・林業体験

今年も来てくれました  
神奈川学園

〈ふれあいセンター〉

八面山のブナ林が見頃を迎えた十一月八日、今年も神奈川学園高校（神奈川県横浜市）の女子高校生三五名が森林・林業を体験しました。

同校は、以前から黒尊山国有林や四万十川でフィールドワークを行っており、今回、当センターは八面山登山と間伐体験（民有林）を指導しました。生徒達は森林の働きや自然と人との共存、過疎化問題等を事前にしっかりと学習して参加しており、ニホンジカによる食害の実態、当センターの森林再生・植生回復の取り組みなどの説明に興味深く聞き入っていました。また、

樹木学習では、樹幹がツルツルとひんやりしたヒメシヤラは、樹幹に直接触れてもらったり、サンショウやセンブリは、葉を味見をさせるなど五感を使った学習や、ブナの大木に吊したブランコは、都会っ子の彼女達に生態系や自然の魅力を印象づけるに十分効果があったようです。

昼食は、四万十楽舎が準備した竹飯と猪汁に舌鼓を打ち、いよいよ間伐体験です。人工林における間伐の重要性、安全な伐倒方法等を説明した後、生まれ

て初めての勇ましい地下足袋姿。へっぴり腰で一生懸命手鋸を引いても、間伐木はなかなか倒れてくれません。かわるがわる悪戦苦闘の末、二〇メートル余りのスギが豪快に



勢揃いした女子高生

倒れると、一斉に大きな歓声が上がっていました。

「ふりかえり」で、「ニホンジカによる食害の実態や森林の重要性を認識した」、「木を切ることは環境破壊というイメージを持っていたが、間伐体験を通じて、その大切さが良く理解できた」といった感想があり、当センター職員も手応えを感じました。

## 緑づくりに参加

〈香川森林管理事務所〉

前日の雨天と打って変わってさわやかな晴天のもと、小学生、親子連れ、ボランティア、地元関係者など二〇〇名が参加して、第五六回香川県植樹祭（香川県主催）が、十一月一二日に高松市香南町と綾歌郡綾川町にまたがるさぬき空港公園で開催され、香川森林管理事務所も後援として所長他が参加しました。

香川県植樹祭は一九五五年から県内各地で開催されており、二〇〇九年からは「かがわ山の日」の記念行事の一環として実施されています。

開会式で浜田県知事から「植樹を通じて県民の

植樹の様子



皆さんが緑に親しみ、豊かな四季を感じることができるよう願っています」とあいさつの後、知事をはじめ大西高松市長、藤井綾川町長ほか来賓者によりソメイヨシノが植樹されました。

つづいて高松市立香南小学校と綾川町立綾上小学の六年生八人が「大好きなさぬきの山々の緑を守り育てていくことを誓います」と宣言し、

一月二七日、高松市塩江町において、「11クリーンウォークinしおのえ（不法投棄撲滅ふれあいクリーン作戦）」が行われました。

このクリーン作戦は、クリーン高松推進事業として、塩江町の三校区（安

11クリーンウォークinしおのえ  
不法投棄撲滅ふれあい  
クリーン作戦

〈香川森林管理事務所〉

一〇班に分かれた参加者は、公園のアドベンチャーゾーン内に、ヤマザクラ、コブシ、ベニカナメモチなど三四〇本の苗木を丁寧に植栽しました。

数年後には、高松空港横の広大な芝生の広場に、憩いと涼がとれる木陰が現れることでしょう。

原・塩江・上西）衛生組合協議会が協同実施したもので、地域住民や一般市民ボランティア、行政関係者の約八百名が参加しました。

当所は、ボランティアや高松市の関係者と一緒

に、大滝山自然休養林がある鷹山国有林から大滝山県民いこいの森キャンプ場にかけて巡回し、不法投棄の監視やごみの回収を行いました。大滝山自然休養林は、高松市の水源となつている香東川こうとうがわの源流域に位置し、水源の森百選に選定され、また、大滝大川だいせん県立自然公園にも指定されており、水源のかん養や保健休養の場として重要な地域となつていきます。

当日は、空き缶やペットボトルのほか、タイヤ、トタン等を回収しました



回収したごみ

が、昨年に比べてごみの量が減った印象を受けました。

このクリーン作戦は、六回目となりますが、日頃の住民の方の地域をきれいにしたいという思いや高松市の協力もあつて、年々ごみの量が減っており、今後、ごみの不法投棄を防止するため、さらに地域や高松市等と連携を深め、巡回や清掃活動等の保全管理に取り組んでいきたいと考えています。

登山道に案内板を設置

〈安芸森林管理署〉

一月二七日、安芸市別役から西又山（標高一、三六〇メートル）に至る登山道について、昨年秋、遭難者が発生したことから、安芸警察署、高知東部森林組合と相談、登山者がわかりやすい案内板を新たに制作することとし、関係者で設置に行きました。

案内板は、スギ木製で、デザインは警察署が、材料は森林組合が提供し、当署職員が手作りで制作と三者の協同作業によるものです。

当日は地元の林業家や新聞記者を含め九名が参加、紅葉にはやや早い時期でしたが秋晴れの絶好



の登山日和。登山口の別役公民館から出発し、民有林から国有林にかけて約六キロメートル、一、〇〇メートル近い標高差を登る本格的な山登りでした。山頂までは約三時間の行程、途中、ハチの襲撃に遭うというハプニングもありましたが、全員無事に、目的地に到着、なだらかなブナ林の迷いやすそうな地点四カ所に手際よくルート案内板を設置していきました。山頂では東に魚梁瀬の最高峰甚吉森がすぐそばに見え、北には徳島県の剣山山系が遠望できる大パノラマを堪能しました。



ルート案内板を設置中



には県内外から登山者がよく訪れます。今後とも、関係者と連携し、登山者の安全確保と国有林のPRに努めていきたいと考えています。  
※平成二三年一〇月三日の高知新聞に、関連記事が掲載されました。

## 「野根山街道散策」

〈安芸森林管理署〉

一〇月二八日、当署管内レクリエーションの森「野根山街道風景林」において、三〇年来の学校恒例行事である奈半利小学校での森林教室を、児童二七名と保護者二〇名を対象に実施しました。

野根山街道は高知県奈半利町から東洋町までを結ぶ山道で、古来より人の移動や物資の運搬、または参勤交代にも利用されてきた歴史ある街道です。

今回は、野川林道から出発し、装束峠、宿屋杉、終点の米ヶ岡までを散策する計一キロのコースです。児童と保護者を三班に分け、若手職員が中

心となって野根山街道の歴史の説明、樹木観察、野鳥観察を行いました。

道中で、不思議な形をした木の紹介や、動物が泥を浴びる沼田場の説明をすると、児童達は歓声を上げていました。また、野鳥観察では、バードコールの使い方を教え、手作りしたバードコールを手渡すと、みんな夢中になって音を鳴らしていました。バードコールに野鳥が応える場面もあり、野鳥を身近に感じることができたと感じます。

また、最後の数キロ続くく下りでは、転んだり、「疲れてもう無理」などど弱音

を吐いたりする児童もいましたが、ゴールが近くになると疲れも忘れ、元気によく駆け下りていきました。

今回の森林教室を通じて、児童達は普段ふれることのない樹木や野生動物を観察することで、より自然を身近に感じることができたようでした。また長くてきつい道の中、友達同士で励まし合ったり、親子でふれあったりするなど、良い思い出作りの機会になったのではと思います。



野根山街道散策中

# 治山・林道工事コンクール受賞者局長表彰式及び 販売事業協力者局長感謝状授与式

〈総務課〉



四国森林管理局長賞受賞者等の皆様

平成二二年度に実施された治山・林道工事コンクール受賞者及び国有林野事業への協力者に対する感謝状授受者の表彰式を一月二八日に高知城ホールで行い、次の方々を受賞等されました。(敬称略)

◎四国森林管理局局長賞

〔治山部門〕

○(株)山全

代表取締役

牛尾 正治

○(株)生田組

代表取締役

生田 嗣夫

○沢良木建設(株)

代表取締役

沢良木基希

○明治建設(有)

代表取締役

山中 巨司

◎四国森林管理局局長感謝状

○高大建設(株)

代表取締役社長

山崎 一志

〔立木の部〕

○福留林業(有)

代表取締役

福留 治實

○湯浅建設

代表取締役

湯浅 雅文

〔素材の部〕

○宇和国産材加工協同組合

代表理事

井上誠一郎

〔林道部門〕

○一若建設(株)

代表取締役

中畑 健右

○院庄林業(株)

代表取締役

豆原 直行

○(株)晃立

代表取締役

島崎 勝昭